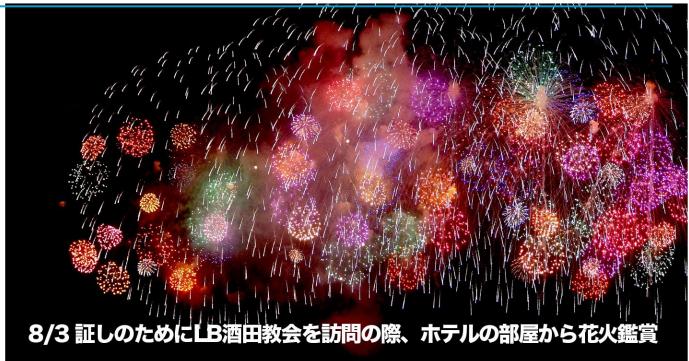


残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」 (138号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一

●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子



8/3 証しのためにLB酒田教会を訪問の際、ホテルの部屋から花火鑑賞

信仰: パウロの心を理解するために

- 8月に入るやいなや猛烈な暑さが続き、連日熱中症の被害が報じられ、追い打ちをかけるような台風10号により四国・近畿地方の大雨と日本海側の40°Cを越す暑さでしたが皆さまの所は被害はありませんでしたか。
- 「ルーテル同胞教団宣教70周年記念月間」の中で、酒田教会の8/4の礼拝において、1963年から1973年まで、酒田の2校の県立高校に勤務した時にお世話になった頃の証しを依頼され、奉仕させて頂きました。
- その当時、一緒に信仰生活をさせて頂いた兄姉とも懐かしい再会ができ、また教会から身に余るおもてなしを頂いて感激しながら帰ってきました。その酒田滞在中に石巻での震度5弱の地震のために心配して下さった皆さまから沢山の電話やメールを頂き、改めて主にある交わりに感謝しました。
- いつかしっかり学びたいと思っていた「ローマ人への手紙」を、ハーベストタイムの中川健一師の講解メッセージ59回分を1/4からインターネットを通してテープ録音を開始し、この文字起こしを8/19に漸く完了しました。
- 1回分のメッセージが1時間余ですから、テープ起こしには、教会の集会、教会の事務処理や訪問客などのある中で行うので、1巻当たり2~3日はかかりました。
- 中川師は、聖書研究を通して日本の教会の覚醒が最も必要なこととして、今取り組んで居られます。聖書を文脈を踏まえて理解することの大切さを強調され、時には、新政改、口語訳、新共同訳の比較だけでなく、ギリシャ語原文に戻つて、その語の持つ本来の意味からの解説ですから、その講解メッセージは毎回「目からうろこ」の連続でした。
- 「救いの三要素」、「救いの達成は、行いによるのではなく、信仰と神の恵みによる。」、「クリスチャンの信仰生活：義認(過去)→聖化(現在)→榮化(未来)」、「イスラエルと異邦人の関係(置換神学の否定)」など、パウロのこの手紙は「キリスト教の教理」が中心であるように思われる。
- しかし、中川師のロマ書12章からのクリスチャン生活における勧めのために、前半の教理が書かれているという指摘には新たな視点を教えられた。
- そして、クリスチャン生活の実践において、最も大切なキーワードは、私たちが何気なく使っている「in Christ」(キリストにあって)で、これが全ての言動の土台とすべきだと説かれ、深く頷いた。
- さらに、現実の教会生活において最も重要なこととして、「使徒の教え(聖書)」で教えられていないグレーゾーンの問題で兄姉への裁きや非難をせず、互いに寛容の心を持って対処すべきだと説いています。
- 暑い夏であったが、この学びを通して心が熱くされ、主の証し人として召されているしもべとして、いつも「in Christ」の心を忘れずに、主を見上げて歩みたいと願わされている。

■ 先月の多くの恵みから

- ① 8月は、教会の諸活動(聖書を読む会/ほっと・Time/コーラス「花」/楽しい手芸の会)がお休みでしたが、9月より、再開されます。各集会の責任を持って下さる兄姉の準備と参加される方が主を中心とした良き活動ができますようにお祈り下さい。
- ② 小林和子さんの「石巻を訪ねて」の証し小冊子、合計80部の追加作成をお願いされ、新たに阿部八重子さんより和子さんとお母さんへの励ましの短歌を添えてお送りできました。

● <祈りの要請> この地から、真剣に求道する民が起こされるように。私達の生き方を通して福音を証しできるように！

③ 8/1に、古川雨生沢の大川将夫さんが胃瘻をする大病から回復され(医者も胃瘻を外す程の回復をされた患者は初めてのこと)、お孫さんの車で奥様と元気な姿を見せて下さいました。良き交わりとなりました。

④ 8/4の酒田教会での拙い奉仕にも、温かい配慮で用いていただき感謝でした。行き帰りの長距離運転も祈りに支えられて無事帰宅できました。また、この機会を通して酒田の教え子と大学の同級生を久しぶりに訪問できました。

⑤ 永井敏夫師をはじめ多くの兄姉や牧師から励ましの手紙、メール、電話、献金、献品を頂き、群に関心を持って祈っていたいことに感謝しました。

⑥ 中澤師の仲介で、9/15の礼拝でJ-Symphonieの北方奈津子さんのフルート演奏、御主人の勝也師が礼拝メッセージの奉仕をしてくださいました。感謝。

⑦ 8/22に、北海道各地のマンホールの絵を色鉛筆で彩色し、拓本を取られてたCarl & Minako Garityが教会を訪問して下さいました。震災時、子ども達のために様々なご奉仕をして下さった方です。素敵な絵を見せて頂きました。

⑧ 9/23にユーロディアの演奏会が専修大で開催されます。

⑨ また、2年に1回開催だった市民クリスマス会の継続の必要を覚え、12/23にICCで催す準備が始まりました。経費の必要がありますので、祈って指定献金をかけて頂ければ幸いです。

■ 今月も以下の課題を祈って頂けるようにお願いします

① 今野かつ子さん/新井勝太・李恵子夫妻/鈴木手以師/Deiさんの治療のために ② 石巻各教会の働きと地域より求道者が起こされるように ③ 大平英秀さん/佐藤 隆さんのために ④ コール夫人の怪我の完治のために ⑤ 石巻ミニストリーネットワークの働きのために ⑥ 来春予定の渡辺総一絵画展の実現のために

群の定期集会

・礼拝 (毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会 (毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」 (第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸 (第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援 (地域の子どもの要望に応えて)	

信仰を詠う

9月 銀色の髪 (1)

銀色の髪が 優しくカールされ
別の私が生まれるサロン

軽やかにカールが揺れるプラチナヘア
鏡の私が華やいで行く
華やいだ気持ちのままに夫に会う
たわ
揺れるカールに「オッホォー」と戯ける



今野かつ子

「銀色の髪」は、1年後の金婚式を前に結婚50周年を記念して、短歌誌「しきなみ」に応募した歌です。幸い「しきなみ賞」の中で最優秀賞を頂き、写真入りで掲載されました。

2019/7月末～2019/8月末までの教会活動の情報と地区教会活動との関わり



8/3-5 ルーテル同胞教団宣教70周年記念で酒田教会を訪ねて（漸く見えた鳥海山/観光名所の山居倉庫の裏側のケヤキと米倉/港花火大会） 庭にも花火が咲きました



8/1 大川将夫さん家族が訪問

8/4 酒田ルーテル同教会での奉仕の際のスナップ（安藤修一牧師 / 「チーム酒田」の伊賀 武夫妻 / 小澤 徹兄 / 奥山るみ姉）



8/5 月山を背景に大学の同級生

8/11 台湾からの希望の家奉仕者が礼拝出席

8/15 年1回の家族集合

8/22 Carlさんご夫妻来訪

8/20 オアシスCでのハープ演奏

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの

宣教70周年記念の酒田ルーテル同胞教会を訪ねて

ここにもレムナント(残りの者)が

石巻祈りの家 代表 阿部 一

昨年10月半ばの酒田訪問は、以前この欄で書いたが、私が担任となつたけれど一度も教えることのなかつた難病を抱えた生徒の葬儀のために心が重かった。今回は1963年(東京オリンピックのあった年)、初任として新設された県立酒田工業高校に奉職した。その後、地域の伝統ある女子高の酒田西高に勤務したが、その9年間お世話になった酒田ルーテル同胞教会の宣教70周年記念行事の一環として計画された8/4の礼拝で、その頃の証しをする機会が与えられての訪問であつた。

79才での後期高齢者の運転のために、みなさんに祈って頂いて8/3に酒田に向かった。この時期の秋空をバックにした勇姿「鳥海山」を期待して出かけたが、今回は2日目の夕方にわずかにその姿を見せてくれただけで残念！

私が、酒田に奉職が決まって、下宿先をKGKでの友人、酒田出身の藤井齊兄のご両親の勞で見つけていただき、さらに、兄の紹介でお世話になったのがこの教会である。当時の牧師は Cymbal の伊藤治哉・真嗣兄のお父様の伊藤良雄牧師で、高校生が多く聖歌隊でも活躍しており、会員の年齢構成もバランスの良い、伝道熱心な教会であった。

しかし、その頃、宣教師が建てた会堂は年数を経て雨漏りが酷くなっていた。そこで、酒田の中心地にあった教会の土地を売って新興住宅地に教会を建てるこになっていた。その経緯は何もわからなかつたが、その教会を解体した木材を用い、会堂と併設して牧師館が作られた。その時、新会堂を建築するのに会員へ献金の要請もなかつたので伺つたところ、売却金で充分まかなえるとの返答であった。

1966年に新会堂が完成し、翌年教会堂に一室を用いて牧師夫人の夢であったその地域の子ども達のための「子羊愛児園」を開設され、結婚したばかりの私の妻も手伝うことになった。

ところが、1969年に伊藤牧師は東京への開拓伝道に召され

て酒田を離れ、さらに、当時の長老が会社から富山への転勤が命ぜられて、酒田を去ることになった。その際に、教会に大きな負債があることが明らかになった。そのために、連日その解決のために役員会が深夜まで開かれた。そして、財政再建のために臨時総会が開かれたが、牧師も辞任し、長老も転勤した中で、この困難な状況の中で責任を持ってこの任に当たるために推薦された執事が自分は引き受けられないと固く拒否されたため、長い沈黙が続いた。その時、オブザーバーとして参加されていたラースン宣教師から、私に信仰の二次的問題（幼児洗礼と滴礼）を乗り越えて、神の栄光のために引き受けるてくれよう要請があり、会員の賛同を受けて立つことになった。自分が相応しくない者であることを承知しながら、神からの恵みの数々が私の心に迫り、引き受ける決意をした。

問題を分析してみると、宣教師指導の教会の持つ宣教団任せや役員任せの体質の弱さが見られた。さらにこの困難な時期に、市内3教会で墓地を購入する問題が起り、さらなる経済的必要が増した。しかし、神は、実にこのことを見通されていたかのように、財務に明るい兄弟を救いに導いて備えて下さっていたのである。

彼の綿密な分析と計画、そして全会員が自分たちの教会の必要に自分ができる最善をもって捧げて下さって、この試練を乗り越えさせて下さったのである。

私たち家族はその後、宮城県に転出することになったが、この試練を益として下さった神は、その後任の牧師たちの努力と会員の協力と信仰によって、2002年に今的新井田川沿いに木造の大きなすばらしい教会堂を神に捧げたのである。

今回、当時の困難な時期に、共に励まし合って信仰生活を送った兄姉が、今も忠実な信仰者として歩み続けられているのを見た時に、私の心には「ここにもレムナント(残りの者)がいる」と、当時の思い出と共に熱い感激が胸を一杯にした。

2008年に私たちが何のバックもなく家の教会「石巻祈りの家」をスタートしなければならなくなつたときに、直ぐにこの教会の兄姉が、「チーム酒田」を立ち上げ、祈りと共にさまざまな形で私たちの群を支え続けて下さっているのです。

「シャーアル(残りの者)」を目指す私たちの同志としての酒田のレムナントの存在に、大きな勇気が与えられた。感謝。

